

前時の復習

1. 企業の大きな目的は何ですか？
企業にとって（ ）が大きな目的
2. 企業の社会的責任にはどのようなものがありますか？
 - ・国・地方公共団体に対して・・・（ ）
 - ・出資者に対して・・・・・・・・（ ）
 - ・取引先や消費者に対して・・・・（ ）
 - ・従業員に対して・・・・・・・・（ ）
 - ・地域社会に対して・・・・・・・・（ ）

次の文章を読んで「企業倫理」について学んでいきましょう。

- ・「倫理」とは・・・（ ）

牛肉ミンチの品質表示偽装事件

■会社名：ミートホープ株式会社（北海道） ■設立日：1976年6月 ■資本金：1500万円
事件発生日（2007年6月20日）

2002年、ミートホープ社の元工場長の告発により地元紙に食品偽装事件が掲載されたが、社名と地域は報道されず、公的機関も動かなかった。

ミートホープ社の常務だった赤羽喜六（あかはね しろく）は行政指導によって改善しようと保健所、役所に告発するが断られた。

逮捕を覚悟で警察に訴えるが、被害届がないことから確認が難しく、このような難件に割く人員はいないと受け入れてもらえなかった。

2006年4月、赤羽は会社の食品偽装を告発するためミートホープ社を退社し、後に数名の幹部も退社、この告発メンバーに加わった。彼等は北海道新聞社とNHKにも告発文を送ったが、両者はこれを黙殺した。

元工場長や赤羽喜六はどんな心情で食品偽装を告発しようとしたのか考えてみよう！

.....

.....

.....

.....

2007年春に事態は一変する。告発を知った朝日新聞が調査を開始し、DNA検査によって牛か豚かを調べた結果、偽装が立証される。同年6月20日、同紙上で北海道加ト吉（加ト吉の連結子会社）が製造した「COOP牛肉コロッケ」から豚肉が検出されたことが報道された。加ト吉が事実確認を行ったところ、北海道加ト吉には原料の取り扱いミスはなく、ミートホープ社の責任者

は加ト吉に「納入している牛肉に豚肉が混ざっていた」と報告した。同紙の取材にも田中社長は「故意ではなく、過失」であったと強調していた。

この件に対し、記者会見で社長は当初否定していたが、元社員らが社長自ら指示し関与しているとの報道がされると、取締役であった社長の長男に促され、記者会見で社長が関与を認めた。

社長は1976年にミートホープ株式会社を設立した数年後から、利益を上げるために偽装を開始。新工場を開設した2004年以降は偽装規模も拡大。偽装ミンチなどの売り上げは年間3億5千万円で、ほかの商品の粗利益が3割にとどまるのに対し、7割に上ったという。

2005年7月には東京オフィスを開設するなど積極的な事業展開により、2006年3月期には年商16億4534万円を計上。だが、役員退職金の支給などから3151万円の当期損失となっていた。田中被告夫妻の役員報酬は年間約3500万円に達しており、同族以外の社員やパート従業員は月24万円以下の報酬で働かされていた。

その後、食品偽装が次々と明らかになっていく。牛肉100パーセントの挽肉の中に豚肉、鶏肉、パンの切れ端などの異物を混入させて水増しを図ったほか、色味を調整するために動物の血液を混ぜたり、味を調整するためにうま味調味料を混ぜたりしたことなどが判明。その他にも、消費期限が切れたものをラベルを変えて出荷したり、腐りかけて悪臭を放っている肉を細切れにして少しずつ混ぜたりするなどの不正行為、牛肉以外にもブラジルから輸入した鶏肉を国産の鶏肉と偽って自衛隊などに販売していたことや、サルモネラ菌が検出されたソーセージのデータを改ざんした上で小中学校向け学校給食に納入していたことも明らかになっている。

(Wikipedia「ミートホープ」、「食品会社偽装の歴史」 参考)